

トゲアリスアブとヒメルリイロアリスアブの 愛知県初記録（昆虫綱：双翅目：ハナアブ科）

菊地波輝¹⁾

First records of *Microdon oitanus* and *M. simplex* (Insecta: Diptera: Syrphidae)
from Aichi Prefecture

Namiki Kikuchi¹⁾

はじめに

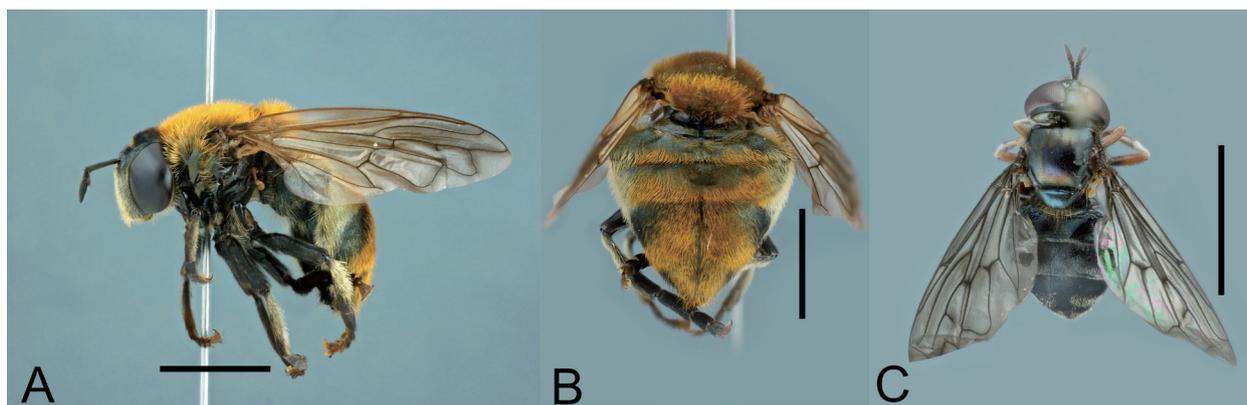
アリスアブ属 *Microdon* Meigen, 1803 は好蟻性のハナアブ科の1属で、日本からは12種が既知であるが、その他にも複数の未記載種・学名未決定種が分布している（丸山ほか, 2013; 市毛・福井, 2019）。幼虫期をアリの巣の中で過ごし、アリの攻撃を受けずにアリの幼虫や蛹を捕食するという興味深い生態が知られ、種ごとに特異なアリを寄主として利用する。アリの巣内で発見される幼虫はドーム状の形態をしており、一見すると昆虫には見えない（丸山ら, 2013）。

愛知県下での本属の採集記録は甚だ少なく、間野（2018）によれば、アリスアブ *M. japonicus* Yano, 1915

とキンアリスアブ *M. auricomus* Coquilett, 1898 の2種が豊田市から記録されているのみである。これは愛知県における本属の多様性を反映しているものではなく、単に調査の不足によるものであろう。筆者は近年、段戸裏谷原生林における昆虫相調査の中で、愛知県未記録の本属を2種採集したため、ここに報告する。

記 録

本稿で記録する標本はすべて筆者によって採集された標本で、豊橋市自然史博物館昆虫資料（TMNH-I）として保管した。



第1図. A, B, トゲアリスアブ *Microdon oitanus* Shiraki, 1930, 雌（TMNH-I-31588）, C, ヒメルリイロアリスアブ *Microdon simplex* Shiraki, 1930, 雌（TMNH-I-31589）。スケールバー：5.0 mm.

¹⁾ 豊橋市自然史博物館, Toyohashi Museum of Natural History, 1-238 Oana, Oiwa-cho, Toyohashi, Aichi 441-3147, Japan. E-mail: namikikikuchi@gmail.com

原稿受付 2024年11月30日. Manuscript received Nov. 30, 2024.

原稿受理 2024年12月10日. Manuscript accepted Dec. 10, 2024.

キーワード: 分布記録, 好蟻性昆虫, 段戸裏谷原生林.

Key words: Distributional record, Myrmecophilous, Dando Uradani primary forest.

1. トゲアリスアブ *Microdon oitanus* Shiraki, 1930 [第1図A, B]

標本：1雌 (TMNH-I-31588), 愛知県北設楽郡設楽町田峯 (段戸裏谷原生林), 2023年6月17日.

採集状況：段戸湖付近の林道上で、地表近くを飛翔していた.

備考：寄主はハヤシクロヤマアリ *Formica hayashi* Terayama & Hashimoto, 1996. キンアリスアブ *M. auricomus* や未記載種のシリグロアリスアブ *M. sp.* に似るが (丸山ほか, 2013), 本個体は雌の腹部の模様 (第1図B) からトゲアリスアブと同定した.

2. ヒメルリイロアリスアブ *Microdon simplex* Shiraki, 1930 [第1図C]

標本：1雌 (TMNH-I-31589); 2023年7月18日; 1雄 (TMNH-I-31590) 1雌 (TMNH-I-31591), 2024年6月25日-7月22日 (マレーズトラップ); いずれも愛知県北設楽郡設楽町田峯 (段戸裏谷原生林).

採集状況：登山道沿いを飛翔していたもの (TMNH-I-31589) 及び林内のマレーズトラップで採集されたもの (TMNH-I-31590, 31591).

備考：寄主はアズマオオズアリ *Pheidole fervida* Smith, 1874. 小型の種で、近似種はない.

考 察

本稿の記録により、愛知県産アリスアブ属の記録は4種となった。本属の種は一般に発生しているアリの巣からあまり離れず、成虫の発生期間も長くない。そのため、意識して探さなければ発見しづらい昆虫である。現状では限られた地域からしか記録がないことを鑑みれば、まだ数種の本属が県内から発見される余地は十分にあるといえよう。

本稿の記録は段戸裏谷原生林での採集記録である。段戸裏谷原生林は太平洋型のブナ原生林を含んでいるが、愛知県下ではブナの原生林は著しく減少しており (小林, 2012), ブナ原生林に生息する昆虫の多くは愛知県内での絶滅の危機に瀕していると言っても過言ではないだろう。カミキリムシ科やクワガタムシ科などの愛好者の多い分類群については、県内のブナ林における生息状況は比較的よく解明されており、複数のブナ林に依存する種が県のレッドリストに選定されている (愛知県環境調査センター, 2020)。しかし、双翅目などのいわゆる「マイナーな」分類群については、本記録からもわかるようにほとんど解明されていない

のが現状である。温暖化やシカ鹿害によって自然環境が悪化していく中で、環境保全の基礎的な情報としても、愛知県におけるブナ原生林の昆虫相の解明は今後の重要な課題である。

謝 辞

段戸国有林内での調査にあたり、中部森林管理局愛知森林管理事務所の皆様には、調査許可の取得等においてご協力頂いた。また、愛知県内のアリスアブ属の記録等について、廣永輝彦氏 (愛知県森林公園) にご教示頂いた。ここに記して感謝する。

引用文献

- 愛知県環境調査センター (編), 2020. 愛知県の絶滅のおそれのある野生動物, レッドデータブックあいち 2020 動物編. 愛知県環境部自然環境課, 名古屋, 769 p.
- 市毛勝義・福井経平, 2019. 青森県及び兵庫県産フタオビホソアリノスアブ (和名新称) について. はなあぶ, 47: 67-68.
- 小林元男, 2012. 愛知県樹木誌. 自費出版, 豊川, 622 p.
- 間野隆裕 (編), 2018. 昆虫編. 愛知県環境部自然環境課 (編), 愛知県の生物多様性 グリーンデータブックあいち 2018, 愛知県環境部自然環境課, 名古屋, (p. D-1-D-280).
- 丸山宗利・小松 貴・工藤誠也・島田 拓・木野村恭一, 2013. アリの巣の生きもの図鑑. 東海大学出版会, 秦野, 208 p.